

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0193000064), 法人名 (株式会社e-ケア), 事業所名 (グループホーム あんしん・ふらの (すばる)), 所在地 (富良野市末広町6番22号), 自己評価作成日 (令和元年11月4日), 評価結果市町村受理日 (令和2年1月10日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の特徴として鉄筋3階建て2階部分に2ユニット用グループホーム あんしん・ふらのがあり、1階には保育施設、デイケアセンター、3階にはサービス付き高齢者向け住宅が開設されています。また、整形外科医院、介護老人保健施設が併設されています。グループホームあんしん・ふらのでは看取り介護を取り入れており他職種の職員との連携、医療連携を図っています。グループホームの近くには商業施設やスーパーがあり地域で安心した生活を送る事ができます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigvovsyoCd=0193000064-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和元年12月3日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「あんしん・ふらの」は、富良野市中心部に近い幹線道路を挟んで向い側は大型スーパー、富良野マルシェ等が並ぶ商業地域、事業所側は住宅地となっている一画にあり、法人代表が病院長として在籍する、50年という歴史があり協力医療機関でもある川村整形外科病院の2階に、2ユニット18人の利用者が暮らす事業所として2013年12月に開設された。当事業所の優れた点として、管理者、職員が先頭に立ち、法人代表の院長も泊まり込み体制の介護・医療連携の中で、利用者、家族の思いに寄り添った終末期に於ける看取り介護が挙げられる。富良野市に於ける最大のイベント「へそ祭り」には、職員と共に代表自らもお腹にペイントを施して積極的に参加し、また富良野マルシェのホールに於いて「市民公開講座」を開催し、常に市民50~60人の参加を得る等、地域との積極的な交流関係を構築している。更に日々の介護に於いては、利用者の入浴日を決めることなく毎日浴槽に湯を張り、利用者が希望する時にいつでも入浴できるように介護の個別化が実践されている等が挙げられる。"あなたの心に寄り添い、あなたらしく安心した生活を送れる事を保証する"介護を目指すグループホーム「あんしん・ふらの」の今後になお一層の期待をしたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes and staff/user interactions.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務室に掲示しており新人スタッフに対しても声掛けをし理念の共有、実践に活かせるよう努力をしている。	理念の実践に向けて、職員の話し合いによる今月の”ケア理念”を定めており、月1回の内部研修に於いても理念の確認を行い、職員は今月のケア理念を通して日々理念の実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており地域行事に参加するなど普段より挨拶をかわし交流している。	開設以来、町内会行事、及び市の”へそ祭り”等に法人代表、管理者を始めとして積極的に参加し、又市民を対象とした”市民公開講座”を主催し、来年度からは”認知症カフェ”の開催を予定しており、地域とは緊密、良好な関係を構築している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や行事、講演会などで地域の方から認知症の理解をいただいておりますご家族様へも協力を依頼している。また、認知症カフェ開催に向けて準備をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回開催されており地域の方、家族様、役所の方を招き情報の共有や意見交換を行っている。	運営推進会議は市担当者、町内会、町内会連合会長、同法人グループホーム管理者等の出席を得て、ヒヤリ・ハット、事故報告等を行い、出席者からは事業所に対する評価等の意見を提出してもらい、議事録は全家族に送付されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議、運営推進会議にて相談、意見交換等を行いながら連携を図っている。	管理者又はケアマネージャーが月1回の市主催の「地域ケア会議」に参加しており、その内容はカンファレンス等に於いて職員に伝えられており、市とは緊密な情報交換を積極的に行う等して良好な関係を維持している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会による内部研修、外部研修などに参加し知識を深めている。ケア会議を開きスタッフ全体で取り組んでいる	「身体拘束防止委員会」を3カ月に1回開催しており、職員は都度その議事録を閲覧している。又同法人の他グループホーム、サ高住とも研修等を通して連携して身体拘束をしないケアの実践に日々努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会や研修で情報交換など行い防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や勉強会にて理解、活用出来るよう努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談時、契約時は随時説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や苦情、相談記録表を活用し反映に努めている。	利用者の意見要望等は日々の寄り添う介護の中から聴取することとしており、家族に対しては利用者の日々の生活を「あんしん便り」として伝え、職員直筆の”お手紙”による情報を積極的に発信し、その意見、要望を聴取する事により運営への反映に努めている。	現在4回の「ふれあい通信」を発行しているが、内容を個人向けとし、さらに発行回数も年6回、2カ月毎として「運営推進だより」を含め、毎月家族宅に情報が送られ、よりサービスが向上するよう、なお一層の期待をしたい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談や月1回の会議など定期的に意見や提案を聞いている。	管理者が職員による自己評価のチェックシートを元に年2回の面談を行うとともに、毎月のケア会議に於いても都度意見、要望を聴取し、運営に関する職員の意見の反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談や月1回の会議等で意見や情報交換など共有している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内勉強会や研修会などの参加できる機会がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協力施設への訪問や地域ケア会議等にてサービスの質を向上させていくよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人、家族様にお会いし暮らし方や好みを知り不安等を傾聴、安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面会や施設見学に来ていただき家族様が話しやすい場所となるよう、また、本人らしく生活出来るよう対応している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が一番必要としているかいち早く理解し実行して職員と連携をしている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人らしく落ち着いた環境作りに取り組んでいる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コミュニケーションを取りながら要望を言いやすい関係作りとより良いサポートできるよう努める		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活スタイルや考えを聞き、面会に来ていただけるような声掛けを行っている。	利用者は事業所から歩いて行ける商店街の理、美容院、メガネ店等を馴染みの店として日々利用しており、又それぞれの時期にはメロン等果物、野菜の差し入れもあり、利用者は馴染みの味覚を楽しみながら季節を感じている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性が円滑にできるよう会話などに気を配り気持ちよく過ごしていただけるよう職員が間に入り寄り添っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人や家族様から希望を聞きながら相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様により良いケアが出来るよう定期的に居室担当者、家族様と話す機会を設け思いの聞き取りをしている。	入居時に利用者の日々の生活及び終末期への思い、意向を聴取して文書として記録されており、その思い、意向は介護計画に記載され、終末期の介護の指針となっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの生活ができるよう生活歴等の把握を行い支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月担当スタッフにて利用者様のモニタリングを実施し現状の見直しや問題点を見いだしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議等を設け介護計画作成に活かしている。	介護計画は安心できる計画を目指し、入居時等の思いや意向の記録を元に、サービス担当者会議を経てケアマネジャーが作成しており、6ヶ月毎に担当職員の現状報告から見直しをし、介護計画が利用者本位のものとなるよう日々努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や日誌、連絡ノートなど活用し情報共有やケアの実践、見直しなど都度話し合いを設けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院、老健が併設されており、1階にデイケア、保育施設 3階にサ高住があり他職種職員との連携により多機能なニーズに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等で情報を得て支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や併設されている病院との医療連携にて取り組み支援を行っている。	従前のかかりつけ医の通院は家族又は職員が同行し、協力医療機関となっている川村整形外科病院とは急な体調異変、ケガにはSNSを利用した緊急連絡体制を作っており、容体、ケガ等の状況は写真等も使用しての利用者にとって迅速で安全、安心な万全な医療体制となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設されている病院と医療連携を行いながら看護職員と相談し支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の面会や様子観察など行い医療連携を行い、必要に応じて情報交換、相談を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	併設されている病院のDrとご本人様、家族様とムンテラがあり医療連携にて支援が行われている。	重度化した場合の対応については、入居時に利用者、家族との話し合いにより確認され記録されている。看取りは職員、病院長が連携を取って行っている。一度他の病院に入院した利用者とその家族が、人間的に温かみのある職員のいる当事業所で最後を迎えたいという希望により、看取りを行った事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	講習会に参加、勉強会など開き知識など身につけている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を実施し改善点などスタッフ間で話し合い次の訓練に活かし協力体制を築いている。	火災時はとりあえず事業所で待つこととしている。当事業所は鉄筋建ての強固な建物であることから地震、水害等の災害時は外部への避難はしないこととしており、家族にも告知している。又地域の方の避難所ともなるよう備蓄等の配慮も行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりが安心して生活が出来るよう寄り添いその方にあった声掛けを行っている。	利用者に対する声掛けは”さん”付けとしており、職員は接遇は介護者の基本である事を理念、研修等を通して認識しており、一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保に日々努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様本位での生活ができるよう寄り添いながら関わりを持っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで過ごす事ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	十分な身だしなみに気を配り清潔に過ごせるよう支援している。散髪や服は本人様、ご家族様と相談しながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自分の使い慣れた箸や漬け物など好きな食べ物を状況に応じて提供し楽しみながら食事が摂れるよう工夫している。	食事は法人全体で外注となっており、管理栄養士が献立を作成して、温かみのある料理が毎食配達されている。地震災害時にも食事の配達滞りはなかった。誕生会等の行事食、おやつは職員と利用者が協力して楽しみながら作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士との連携や記録を活かし一人ひとりにあった食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	見守り、声掛け、介助を行いながら口腔ケアを行っている。また、口腔内チェックし清潔保持を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状況に合った対応が出来、共有できるよう評価表を活用し取り組んでいる。	ユニットほととの居室にトイレは設備されていないが、すばるには設備されており、排泄記録は自己申告及び職員の確認によっている。排泄は時間、仕草等から声かけ、誘導等を行いトイレでの排泄を基本としている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の声掛けを促し病院との連携を取りながら予防に努めている、		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に添いながら好みの湯の温度を調整しゆっくりと入浴していただいている。	利用者の入浴日を決めずに、毎日浴槽に温かな湯を満し、利用者が入浴したい日、時間を選択できる個別化が徹底されている。浴槽は2人～3人が介助できる可動式であり、1日に3、4人の利用者が温かな湯で入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療連携図るとともに個人ファイルやチェックシートの活用をし支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手芸やレクの参加、危なくない程度に家事のお手伝いなどしていただき気分転換できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に添えるよう家族様、地域の方との協力にて支援している。	花見、紅葉等の季節のドライブには事業所の車を使い、ユニット全員ではないが、希望者の数人で出かけている。又歩いていける商店街、スーパー、富良野マルシェ等には職員が1、2人付き添って出かける個別対応となっており、川村整形外科病院のリハビリには、事業所と病院の中通路を使ったり、わずかな距離ではあるが敢えて外を歩いて行く利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により預かり金として対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望にて電話を使用する事ができ、家族様との手紙、葉書のやりとりの手伝いを行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは季節を感じられるように飾り付けを行っている。本人様の居室には馴染みの物を使用するなど工夫している。	リビング、食堂は窓が大きく明るく温かな日差しが溢れ、ソファーがあり、そこは2ユニット共用であり、利用者は2ユニット混在で職員も交えての会話等を楽しんでいる。食堂テーブルはユニット毎となっており、温かな料理の湯気が日差しに反射している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席配置の工夫や希望に応じて好きな場所が居場所になるようソファーなど設置し工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みのある物を活かして安心して過ごす事ができるよう対応している。	居室はほととが6帖、すばるがトイレ付きの7帖となっており、以前の生活がそのままの風情の部屋もあり、利用者はこの居室で一人の、そして来訪した家族との時間を過ごし、”あなたの心に寄り添い、あなたらしく過ごせる”職員の安全、安心の介護のグループホーム「あんしん・ふらの」に日々暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全自立した生活が送れるよう工夫している。整理整頓に心掛けている。		